

両国間の労働人材交流における課題を解決し、より良い制度運用を実現する

カンボジア長野モデル

カンボジア側機関との関係構築及び状況視察ツアー

2024年3月27日-2024年3月31日

長野県議会議員 長野県議会日柬友好促進議員連盟会長
佐々木祥二

NPO法人 日本カンボジア友好人材センター
中平憲助 江口淳一 今橋隆之 橋本将之 田中彩希

長野県シンガポール事務所
湯本茂樹

掲載写真及び資料制作
Kampuchea Thmey Daily
石川正頼

2024年3月27日 午後5時入国
午後6時半より

長野県とカンボジアの交流促進を目的とするNPO法人「日本カンボジア友好人材センター」は、長野県議会日柬友好促進議員連盟会長佐々木県会議員と共に、港湾関係の総裁バビー氏と港湾のスタッフやカンボジア労働就労訓練省のソカー氏と懇談し、シハヌークビル港の整備と新港湾に関する話題や、日本の支援について議論を行いました。

新しいコンテナターミナルの建設による安全性の向上や効率的なオペレーション、そして2030年に向けた需要予測についても取り上げ、交流を深めました。

さらに、日本政府はシハヌークビル港経済特区内の貨物混載倉庫の建設を支援しており、国際協力機構や銀行といった機関もこの取り組みに関わっています。また、労働大臣や日本大使、JICA所長とのミーティングも実施され、カンボジアからの実習生や技能生の受け入れ状況、日本語教育、職業訓練校の状況についても情報交換が行われました。



2024年3月28日

カンボジア王国プレイベーン州

(プノンペンから車で2時間の距離)

プレアスdach郡の3校訪問 午前

▼フンセン・タコーク 中高等学校

カンボジアに帰国した元研修生が、教育現場で日本語教師として活動しています。特にフンセン・タコーク中高等学校では、日本のライオンズクラブの援助で建てられた校舎が老朽化し始めており、修繕の必要があります。同校には図書館もありますが、日本語の書籍が不足しているため、生徒たちが日本文化をもっと身近に感じられるよう、書籍の寄贈が求められています。さらに、教育機器としてのイス、机、ノート、ペンなどの物資支援の要望もあります。また、日本語能力を持つ人材の育成に関する支援も強く求められています。



フンセン・タコーク 中高等学校



生徒皆さんの歓迎



校長先生ほか先生方と懇談



日本語学級の皆さんと



日本語教室で佐々木県議より挨拶



クメール正月の飾り中に記念写真

両国間の労働人材交流における課題を解決し、より良い制度運用を実現する。
カンボジア長野モデル。

2024年3月28日

カンボジア王国プレイベーン州
プレアスダッチ郡の3校訪問 午前

▼カンボジア日本友好学園

▼プローム・プロム 中高等学校

学校正門から、生徒の皆さんより歓迎を受ける

クメール正月前に一部の生徒がクメールダンスの練習をしていたので
県議も参加しました。



カンボジア日本友好学園にて



カンボジア日本友好学園 歓迎



カンボジア日本友好学園 沿革
ブンティ理事より説明



プローム・プロム 中高等学校
ダンスを一緒に練習

両国間の労働人材交流における課題を解決し、より良い制度運用を実現する。
カンボジア長野モデル。

2024年3月28日
カンボジア王国プレイベーン州
プレアスダッチ郡 午前

プノンペン港総裁バビー氏が建設している農業、養殖、老人介護施設など視察
建設中でしたが30ヘクタールの壮大な経過地を拝見



プレイベーン州 農業（稲作）、養殖、介護一体の計画を拝見



プノンペン港総裁バビー氏より計画の説明



(左) プレイベーン州プレアスダッチ郡郡長



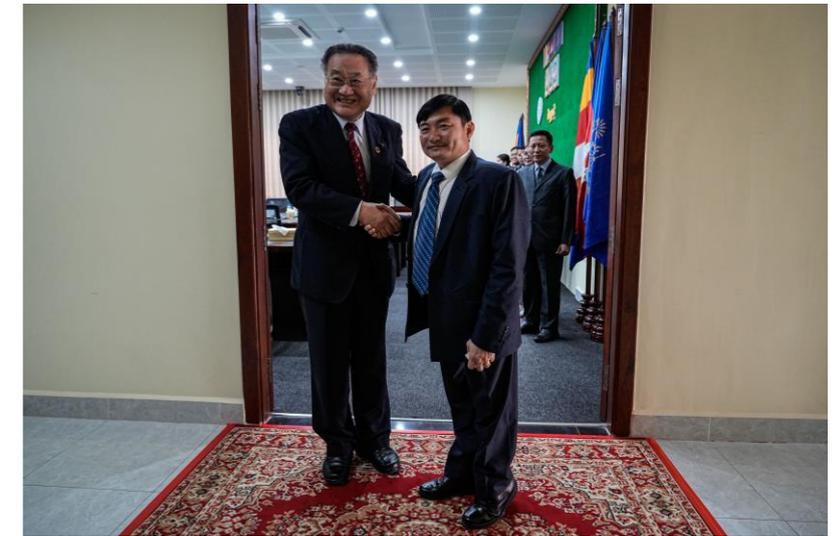
リタイアメントハウス及び高齢者介護施設
両国間の労働人材交流における課題を解決し、より良い制度運用を実現する。
カンボジア長野モデル。

2024年3月28日午後3時
カンボジア労働職業訓練省
ヘンソー大臣閣下表敬

カンボジアのヘンソー労働職業訓練大臣との懇談において、日本とカンボジアの政治関係の進展と両国の労働市場拡大の機会について話し合いが行われました。日本留学を経験され、親日であるヘンソー大臣。年間通して何度か日本を訪れているそうです。同席していただいた方々も、日本に留学経験あり、長野県の人材受け入れ姿勢に非常に興味を持っていただきました。



(右) 元在カンボジア日本大使館労働担当ソカー氏



(右) ヘンソー労働職業訓練大臣



両国間の労働人材交流における課題を解決し、より良い制度運用を実現する。
カンボジア長野モデル。

2024年3月28日午後3時
カンボジア労働職業訓練省
ヘンソー大臣閣下表敬②

大臣は農業、製造業はじめ、人材育成を強化するにも、長野県の受け入れに期待されています。カンボジア人のスキルアップによる生産性の向上と、現代技術訓練の重要性を強調しました。また、日本側への感謝を述べ、佐々木県議からは、次に日本を訪問する際は長野県への訪問も希望していることが伝えられました。



ចំណែកភាគីជប៉ុនវិញ ក៏បានគូសបញ្ជាក់ និងថ្លែងអំណរគុដល់ រដ្ឋាភិបាលកម្ពុជា ក៏ដូចជាក្រសួងការងារ និងបណ្តុះបណ្តាលវិជ្ជាជីវៈ ដែលបានទុកចិត្ត និងបន្តកិច្ចសហការជាបន្តបន្ទាប់ជាមួយក្រុមហ៊ុន ជប៉ុន។

ជុំវិញនៃការស្វែងរកឱកាសពង្រីកទីផ្សារការងារ និងការពង្រឹង សមត្ថភាពជំនាញរវាងកម្ពុជា-ជប៉ុន ឯកឧត្តមរដ្ឋមន្ត្រី អះអាងថាភាគី កម្ពុជាបានត្រៀមខ្លួនរួចជាស្រេចដើម្បីគាំទ្រកិច្ចសហការឱ្យដំណើរការ ដោយល្អ និងទទួលបានលទ្ធផលផ្លែផ្កា។

#MLVT #HENG Sour

翻訳を見る



ヘンソー労働職業訓練大臣よりSNS発信

両国間の労働人材交流における課題を解決し、より良い制度運用を実現する。
カンボジア長野モデル。

2024年3月29日午前
JICAカンボジア事務所
讚井一将所長 会談

JICAカンボジア事務所の讚井所長との会談では、国際協力に関する貴重な意見交換が行われました。所長からは事務所の歴史や無償資金協力、ボランティア活動についての説明を受け、2030年までにカンボジアが高中所得国入りを果たすための経済社会基盤構築への支援について情報提供がありました。佐々木県議は、教育分野での支援、特に日本語教育を通じて、日本とカンボジアの絆を強化することを強く要望しました。

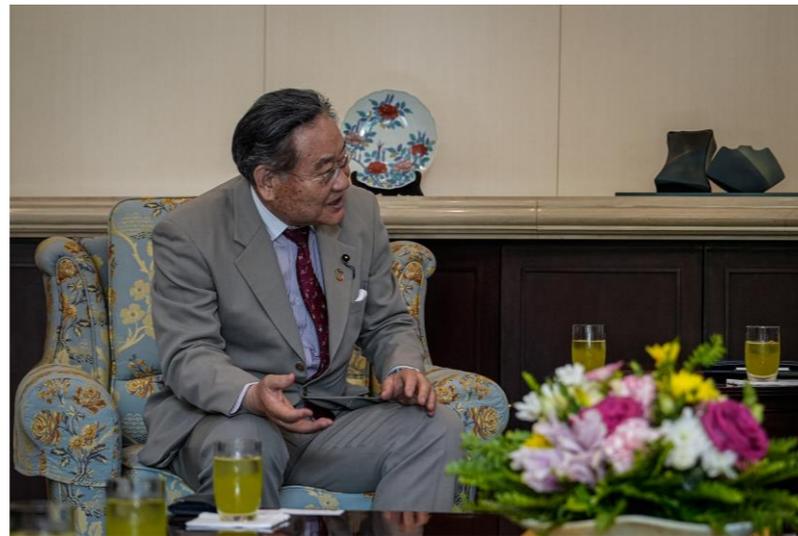


(左) 讚井所長



2024年3月29日午前
在カンボジア日本国大使館
植野篤志特命全権大使閣下表敬

在カンボジア日本国大使館の植野大使との会談で、カンボジアと日本の相互協力、両国の発展、人財派遣、日本企業のカンボジアでの活動拡大が話し合われました。特に日本での自動車整備工場の技術者養成とカンボジアへの工場新設の可能性が議論され、両国の労働市場拡大や日本からの実習生・技能者への支援についても要請が行われました。



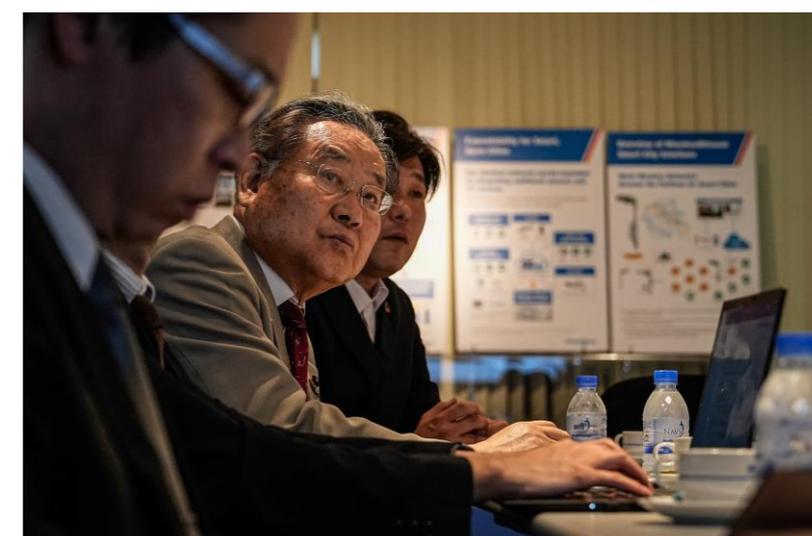
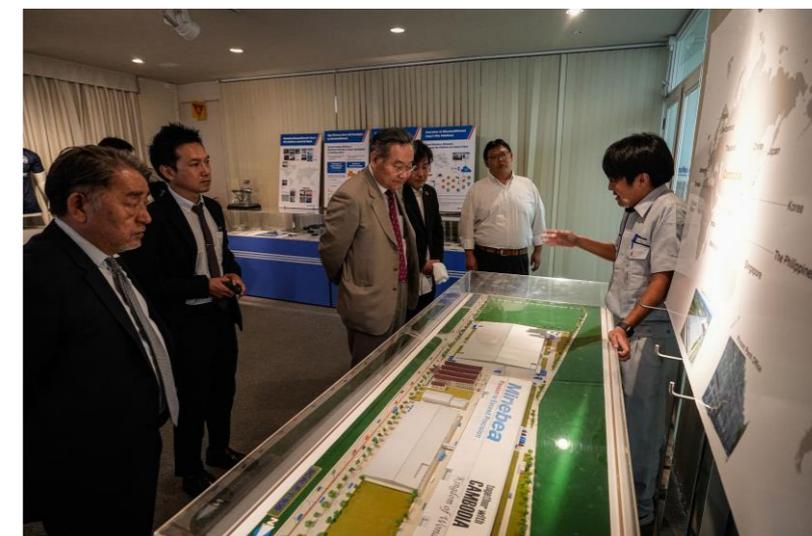
(左) ソカー氏、(中) 植野大使

9 両国間の人材交流における課題を解決し、より良い制度運用を実現する。
カンボジア長野モデル。

2024年3月29日午後
ミネベアミツミ
プノンペン事務所
青木様、渡邊様 会談

カンボジア国内で
「スマートシティ」を開発中
Aiによる外灯の明るさ調整
駐車場の満空状態の確認などに先端技術を導入しています。

PPSEZ（プノンペン経済特区）内に自社工場を建設した頃からの話や、現在6千人のカンボジア人を雇用し、福利厚生を充実させ、地元の方々に喜んで働いてもらう工夫をお聞きしました。年に1回、従業員の家族も呼び寄せ、工場敷地内でイベント開催など。
カンボジア国内に前例の無い、敷地内に従業員アパートを建設し、食堂も配備たことが印象的でした。



2024年3月29日午後
カンボジア報道機関
Kampuchea Thmey Daily
取材対応

カンプチアトメイデイリー社のスタジオで佐々木県議とカンボジア労働省のソカー氏の間で対談がテレビ収録されました。この対談では、労働大臣との先の会談内容、日本への実習生の条件、労働賃金、福利厚生に関する質問がなされました。また、日本の家族的な企業経営や神話的な文化に触れ、日本で学んだ後にカンボジアに帰国しても、引き続き協力して両国の相互発展を図るとい話し合いが行われました。



2024年3月30日 午後1時頃
コンポントム州アツ小学校訪問
(プノンペンから車で4時間の距離)

アツ小・中学校を訪問

この学校は、中田厚仁氏が90年代のカンボジア内戦後の民主化選挙期間中にゲリラの攻撃で亡くなった場所に建てられました。彼の両親が私財を投じて設立したものです。アツヒトさんの夢を実現するために、学校では日本語教育に力を入れており、生徒たちが近所の日本企業で働く機会を提供することで、海外へ出稼ぎに行く必要がなくなり、地域経済に貢献すると関係者は述べています。



中田厚仁氏のお墓

2024年3月30日 午後2時
コンポントム州カシュー加工産業
日本カンボジア共同民間事業例
加工工場及び産地収穫現場視察

ミラースアグリテック社の工場では、工場長をはじめ、従業員も女性が多く、カシューナッツの選別から整形、水分調整、袋詰め、真空パックまでの細かい作業を日本製の機器で行っており、HACCPに対応した衛生的な作業環境が整っています。従業員からは、現地で安定した収入が得られるため、海外へ出稼ぎに行かずに子育てができることへの感謝の声がありました。現在は増築中で、100人の従業員が働いており、将来的には300人規模の雇用を望んでいるようです。また、忙しいながらも日本語教育や作業工程の研修会を実施している様子が伺えます。



(左) 当工場商品のパッケージキャラクター「マダム・ライホー」は工場長のライホー氏



(左) ミラースアグリテック社 社員
長野市出身、JICA卒業生

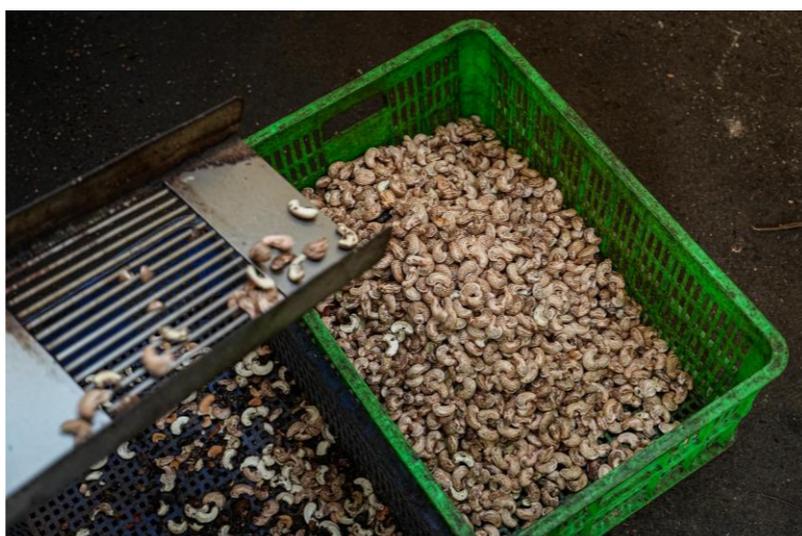
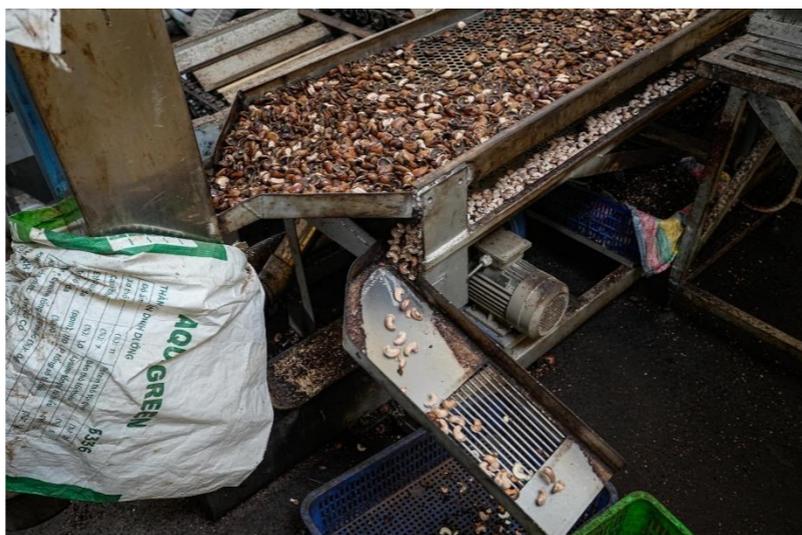


ミラースアグリテック社
カシューナッツ工場内

2024年3月30日

コンポントム州カシュー加工産業
日本カンボジア共同民間事業例
加工工場及び産地収穫現場視察②

ライホー工場長の娘さんが経営するカシューナッツの集荷、乾燥、殻割工場を視察しました。この工場は女性の雇用促進を実践しており、女性の活躍が特に顕著です。重労働を伴う仕事では男性従業員も雇用されていますが、女性経営者のリーダーシップが光っていました。



2024年3月30日

コンポントム州カシュー加工産業
日本カンボジア共同民間事業例
加工工場及び産地収穫現場視察③

カシューナッツ農園では、広範囲にわたる木々の水やり、肥料やり、そして収穫がすべて手作業で行われており、多くの女性がこれらの仕事に従事している様子が見られます。かつては収穫されたカシューナッツをベトナムへと売却していましたが、現在はカンボジア内の工場加工され、国内で出荷されるまでの一連の作業が行われています。この変化により、従業員は工場直接収入を得られるようになり、製品に付加価値を加えることで利益が増加し、収入も向上しています。農園は日本企業との連携を模索し、日本式の経営方法を研修し、導入することにも意欲を見せています。



2024年3月31日 午前 シェムリアップ州 世界遺産アンコール遺跡群 観光資源活用事例視察

上智大学と早稲田大学はカンボジアでの世界遺産修復に貢献し、カンボジア人と協働で文化財の維持と地元人材の教育を推進しています。この活動は、カンボジアの民族的誇りと文化的復興に寄与し、現地主導の修復作業を支持しています。長野県では、善光寺や馬籠宿のような遺産を世界に認められるよう、国際協力と地域協働を強化し、継続的な保全活動が必要です。

